

大阪精神保健福祉士協会における スーパービジョンへの取り組み ～スーパービジョンこれから普及プロジェクト第6報～

- 富澤 宏輔（大阪人間科学大学） 森 克彦（アンダンテ就労ステーション）
大垣 尚久（丹比荘病院） 金 文美（のんびりハウス）
上田 幸輝（サポートハウスアンダンテ）
辻本 直子（オラシオン） 西川 孝（サラダ倶楽部）
安居 幸栄（ハートランドしぎさん） 長谷高 純一（にじクリニック）

はじめに

- 一般社団法人大阪精神保健福祉士協会（以下、当会）では2013年度にスーパービジョン（以下、SV）への取り組みが提案され、2014年度から「スーパービジョンこれから普及プロジェクト」（通称：これプロ）を開始した。個別SVの実践であるパイロット事業を行う。
- 2015年度からスーパーバイザー（以下、SVR）養成講座を、2016年度から講座修了者の登録スーパーバイザーによる個別SVを開始した。
- 本取組はパイロット事業のプロジェクトチームに始まり、現在は当会の研修体系の専門研修に位置づけられている。この活動は研修の運営のみにとどまらないことから、昨年新たな要綱を策定し、SV事業を運営している。
- 本取組は、これまでに本学会で5回報告した（第14回・第15回・第16回・第17回学術集会。第17回では2演題）。

これプロ 年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
SV実践	E募集	フォロー担当からマッチング結果のお知らせ	個別SV実施						SV終了報告 アンケート記入	SVR登録 登録更新	SVE募集		
フォローアップ 養成講座	メーリングリストによる交流、情報発信 フォロー担当者との相談												
					夏カフェ							春カフェ	
実行委員会	第1回 (月末) ・マッチング			第2回 (初旬) ・養成講座企画 ・夏カフェ企画 ・個別SVモニタリング				第3回 ・養成講座企画 ・SVR登録 ・SVE募集			第4回 ・年度まとめ ・年間計画作成 ・春カフェ企画		
ニュース	発行	締切	発行	締切 (講座募集)	発行	締切	発行	締切		発行 締切 (SVE募集)	発行	締切	

本報告の目的

- SVR養成講座（2014～2019年度まで5回実施）を振り返ることから、これまでの取組を紹介し、今後の事業展開について報告する。
- 都道府県協会の事業としてのSV普及の取り組みについて、情報を提供し、さらなるSV普及に努める。

II 取組の経過

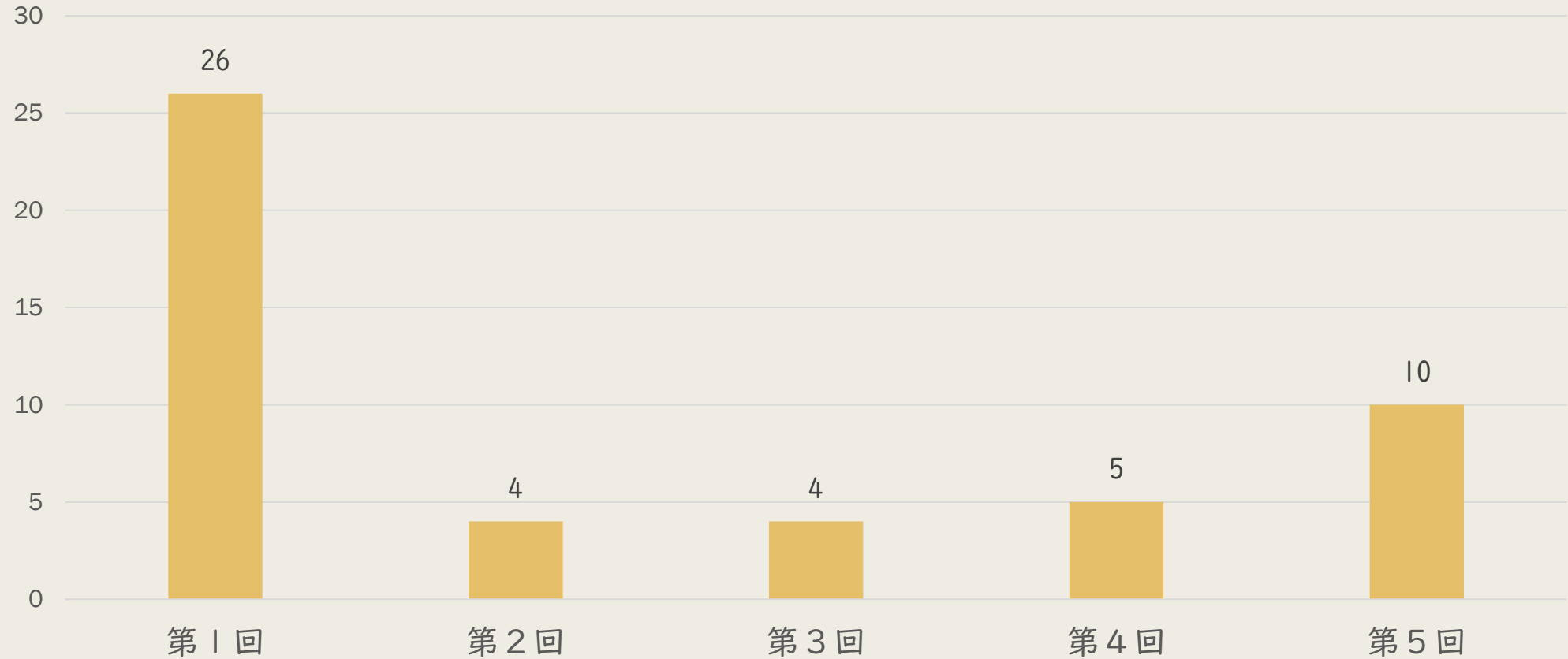
- 現在の取組の根底となっているのが、2014年度に行った個別SVの実践である。この実践について、SVR経験者の意見だけでなく、スーパーバイザー（以下、SVE）経験者の意見も反映することを特徴とした実行委員会を組織した。
- 検討を重ねた結果、当会が取り組むSVは
「精神保健・医療・福祉等の領域で、5年以上のソーシャルワーク実践経験を有する先輩PSWが、1年以上の経験を有する新人PSWの対人援助職としての学びを、互いの契約に基づき援助する過程」と定義している。

- SVR養成講座は、本取組においてSVを実施するSVRの養成を目的としている。

- 養成講座の内容は、以下の4コマを1日で実施している（要綱に規定）。
 - 「スーパービジョンの基礎理論」（80分）
 - 「契約等実施準備の説明」（30分）
 - 「スーパービジョンの実践論」（90分）
 - 「グループ演習」（90分）

- 開始当初から内容・時間数に大きな変化はない。しかし、同じことの繰り返しではなく、毎年開催の直前にある実行委員会の議論や、登録SVRのメーリングリストでのやりとりを踏まえたものとなっている。

講座修了者(49名※)



※講座受講者のうち修了証発行者をカウント

改善や工夫した点

実行委員会メンバーは
毎回参加しているが、
新たな気づきがある。

- 1つ目は、**再受講**ができることである。

養成講座の主たる対象は、定義に合致する経験を持つPSWで、講座終了後に登録SVRとして実践する会員であるが、養成講座を修了し登録SVRとして実践している会員が、**実践の確認や再学習のできる場**となっている。

とくに、「スーパービジョンの実践論」の講義は、他のSVRやSVEの話を知ることができると好評である（受講者の声は9番目のスライド参照）。

- 2つ目は、**聴講**ができることである。

SVRとして実践することを検討している会員を想定しているが、当会の場合にはSVEとしてSVを受けてみたい会員の、SVの実際を知りたいという要望にも応えるものである。

SVRを担うであろう世代の参加者からは「職場で実践したい」「職場で実践する必要性があるため」という声がある。この意見も重要ととらえている。

- ほかに「契約等実施準備の説明」では、実際に説明を行った際に必要な内容の追加（当会事務所を使用する場合の手続き等）。また「グループ演習」は、講座のうち唯一参加者がアウトプットするプログラムであることから、実施内容を繰り返し検討している。

第5回養成講座 受講者アンケート

- 講義から実践そしてグループワークと盛りだくさんでしたが、どの時間も有意義に感じられました。ありがとうございました。
- SVR、SVE両方とも実践を聞く事が出来てSVのイメージが持てました。とても勉強になりましたし、元気をもらいました。ありがとうございました。
- 理論と実践と演習のバランスが良く大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 理論から実際のバイザーとして活躍されている方の具体的な話も聞く事が出来て良かったです。今回を通してバイジーバイザーとして両方関心を持ちました。
- とても元気をもらいました。スーパービジョンの敷居が高いイメージから身近なものに変わり、これからソーシャルワーカーとして仕事をしていくための活力になったなと思います。
- 最後のグループワークがとてもよかった。
- 理論からグループワークまで幅広く学ぶことが出来ました。SVR自身もSVを通じて一緒に学んでいくという姿勢でOKということが皆様の話しをお聞きして良く分かりました。ありがとうございました。

Ⅲ 取組の成果と今後の展開

- 取組の成果「SV実践の場が形成され、継続できていること」
- これまでの取組により当会のSV事業は、個別SV実践、登録SVRへのフォローアップの場として年2回設定しているSVカフェ、SVR養成講座、不定期に開催するSVの普及啓発のための全体研修が、年間計画に基づいて行われるようになった。また、これらは相互につながっており、**実践と検討が循環し、継続、蓄積**したものとなっている。
- 毎年新たな受講者、登録SVR、そして**SVE**が加わり、一定数のPSWがかかわる事業となっている。
- 今後の展開「今後は反復の部分だけでなく、多様性社会の中で実践するPSWから持ち込まれる新たな課題にも向き合う場として継続していく」

今年度の新たな取組

- 1つ目は、グループスーパービジョン（以下、GSV）実践の試行的検討である。
当会の初任者基礎研修とのコラボ企画（GSV）へ登録SVRが参加しており、GSV実践の実施、普及について検討を進めている。試行的なグループでの実施を検討したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、今年度の実施は見送りとした。

- 2つ目は、当会ウェブサイト内にある会員ページへのSVR情報の公開である。
SVRの増加やSVの内容が多岐にわたることから、より円滑なマッチングを進めるために開始した。

☆ 今後もSV事業を継続し、当会会員へさらにSVの普及啓発に努めていきたい。



ご視聴ありがとうございました

☆本発表へのご意見・ご質問は以下までお願いいたします。

k-tomizawa@kun.ohs.ac.jp 富澤まで

☆これまでの「スーパービジョンこれから普及プロジェクト」の取り組みは
大阪精神保健福祉士協会HPに掲載しています。

各地域におけるSV普及の取り組みの一助となれば幸いです。

スーパービジョンこれから普及プロジェクト（これプロ）

<https://www.osaka-psw.org/%E3%81%93%E3%82%8C%E3%83%97%E3%83%AD-sv/>